

## ＝2014 年 新年を迎えて～足下から一つひとつを積み上げて～＝

新年、明けましておめでとうございます。この日を、皆さまは、どこで、いかがお過ごしでしょうか？

私は、30、31 日と、夫婦双方の両親と叔母夫婦の 3 世帯と我が家の計 11 名（年齢は合計で 600 歳超）で、石川県の山代温泉にて早めのお祝いをしました。以前は、我が家に、皆を呼んでの正月宴会でしたが、ここ数年は、ご無沙汰でしたので、場所を温泉に変えての企画でした。なかなか、好評でしたので、今後も続けたいと思っておりますが、どうなることでしょうか？

さて、今回は、今年の活動評価と今年の方針についてです。

### <2013 年を振り返る>

昨年は、「自らを高めて 実のある時間を」をテーマにしましたが、達成度で言えば 50% といったところでしょうか。

交通事故等のアクシデントがあったこともあります。自分自身のモチベーションの低下もあったような気がします。少々、反省気味の 2013 年となりましたが、この 1 年を振り返ってみます。

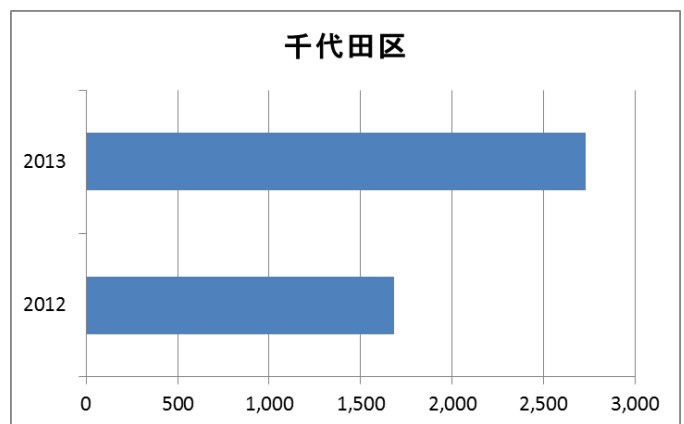
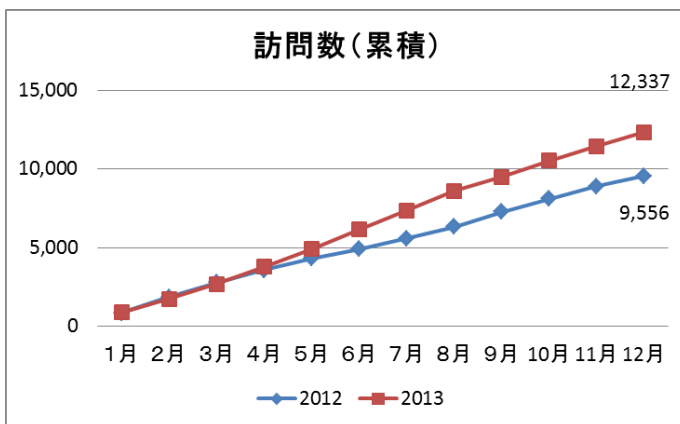
### 1 政策提言に向けて

昨年の HP 上での活動は、ヒューマンケア通信 20 本、講演・レポート 7 本、コラム 76 本の掲載となりました。

このうち、レポートは、政策提言的な意味合いを強めたいと思っておりましたが、意図に反して、掲載した本数は 3 本と、昨年より 10 本少ない数に、とどまりました。

コラムでも書いたように、3 月半ばには福井市内で交通事故の被害にあつて身体的に厳しい状況になり、また、4 月には契約解消を考えていた法人との契約が、支援密度の強化という逆の状態となり、正直、データの確認・整理の時間を確保するのが難しくなったのが原因でした。

それでも、HP の実績は、ユーザー数は昨年を、少し下回ったものの、訪問数は昨年の実績を 2 割超える水準となり、特に、霞が関が所在する千代田区でのアクセスが 1.6 倍に増えており、ありがたいことと思っております。



また、ヒューマンケア通信で、ワクチンについて掲載しましたが、それに少しは関心を持っていただいたか、社会保険旬報でワクチンの連載が始まりました。どのように進めるかと、相談も受け、広がり期待したものの、同時期に、子宮頸がんの副反応問題で、また、ワクチン政策が停滞する様子を示しているのが残念なところでは。

一日も早く、副反応問題に決着をつけ、ワクチン提供側も「モノ」を売るばかりでなく、「安心感」を提供できる体制を早急に整備し、旬報に連載のあったような各国と同様の状況になり、自分の孫の世代にツケが回らないようにしたいと願うものです。

さらに、当初、予定はしていませんでしたが、今年は、事故のため、5 月に買い替えた車で、できるだけ多くの地方を回ることができました。これまで、ほとんどの都道府県に行ったことはありますが、多くは県庁所在地を訪れる程度でしたので、実際の地方の状況（経済や医療・福祉の状況など）は、あまりわかっていませんでした。

月 2 回の東京と福井の往復のついでに遠回りをしたり、週末の空き時間に遠出（一泊もあり）をしたりして、農山村地域の状況をできるだけ見るようにしました。車の走行距離は、8 か月弱で 3.5 万 km となるなど、結構な地域を見て回ることができました。こうした見聞は、今後の政策提言に、きっと役に立つと思っております。

なお、遊びの世界ですが、ドコモのスマホの「訪れた街」というアプリは、全国を38万枚の格子で区分(1枚が約1km<sup>2</sup>)して、その行った地域の枚数をランキングしていますが、今のところ、2.1万枚をクリアし、総合ランキングは20位以内となりました。ちなみに福井は、車で行ける地域をほぼ走破し、福井に限れば1位という状況です。

何か一つは免許・資格をとって自分の活動が広がれば・と考えていましたが、資格等はとれなかったものの、違った意味で活動が広がったことは、良かった点です。

しかし、この枚数の増加は、事故の後遺症で、車の運転に過度なストレスが生じる(左右から車が来ると過剰に反応)という状態を解消するためのものでもありましたが、残念ながら、完全に元に戻ったとは言えないのが残念なところです。このストレスと、いつまで付き合うことになるのか・気になるところです。

## 2 事業主体のアドバイザーとして

今年は、当初の予定とは異なり、福井での仕事を打ち切り、東京での仕事の時間が増えました。

経営層の若返りと法人形態の変更(持ち分のない形態へ)という条件で、当該法人に関わる時間を増やし、間もなく生じる精神科病院の大きな人材移動～病床減に伴うサービス提供方法の変更・病棟から地域へ～に向けて、人材の再教育等のための環境づくりの1年となりました。

人材の再教育のために、本部に新たな組織を設けたり、法人内の管理職相手に趣旨を講演したりと基礎的な仕事をしていましたが、それが成果を出すかどうかは、今のところ未知数です。成功の確率は低いのではないかと考えていますが、どこまでやれるか・自分自身を試しているところです。あと2~3年が勝負ですが、間に合うかどうかは、正直、わかりませんが、やってみるだけです。

一方、45歳未満からなる次世代による研究会(チャレンジド研究会)は何とか日の目を見ましたが、「メンバーの2名が退職」改善企画とした店舗は結果的に契約解消」といった予想外の事態も生じました。それでも、8回の会合を経て、同世代の連携は強くなってきたと思います。いずれ、この中から、未来につながる何かが生まれることを期待するものです。

また、社会福祉法人に寄付した基金を使つての「職員提案」の活性化については、あまり成果はありませんでした。当該法人の経営層も公務員ばかりになり、経営改善も公務員らしく「補助拡大・費用削減」といった方向が強くなり、職員提案による改善が重視されなくなったことが影響しているのでしょうか。

やはり、職員提案の方式は、法人経営層が、その重要性を実感しないとうまくいかないということのようです。

## 3 子供、家族に向けて

親と歩く、江戸散策といった月1回のイベントは、何とか継続することができました。

まず、親と歩くは、福井県内ではなく、石川県や富山県へのお出かけも増えて、徐々に広域化してきました。両親が、かつて行ったことのある場所も、10年以上を経て、改めて行くと、彼らの記憶とは異なる風景もあるようです。両親の加齢に伴う衰えも進んでいるようですので、いつまで続けられるかは不明ですが、無理せず、続けたいものです。

また、江戸散策は、新東京百景に基づき、順次、訪問してみるつもりです。長らく東京で生活していましたが、多くは行ったことのない場所であり、暇を作つては、それらに行くのも面白いものです。双極性障害(の疑い)で3月まで休学した次女も、しばらくの間ですが、一緒に行ければと思っています。

Personal Historyは、私の子供や、家族、親族を対象とした情報発信、早めの遺言集といった意味合いのものですが、途中、書き続けるのが厳しいときがあったものの、何とか継続することができました。

今年中に外国での生活を始める予定の長女や4月には学業に復帰する予定の次女の後押しとなるように、引き続き、頑張りたいと思います。中学生の長男が、これを見て、意味が分かるようになるには、まだ時間がかかるでしょうが、将来、少しでも役に立てばと思っています。

### 精神科病院のスタッフのメンタリティ

- 1 「統合失調症は対応できるが認知症等はやりたくない。」  
⇒ 一般病院では考えられないような、疾患別に人材活用が限定されることが起きる。
- 2 「精神的な管理は対応できるが身体管理は自信がない。」  
⇒ 今後の対象患者の高齢化の中で、トータルをサポートすることは避けられない。
- 3 「自らが長くサポートしたい。他の事業との連携は嫌だ。」  
⇒ 一般医療と比較して、より縦割り、孤立的な意識が強い

このままでは、精神科病院に求められる変化に対応できない。

## ＜今年は「足下から一つひとつを積み上げて」をテーマに＞

今年は、3月の交通事故で歯車が狂った昨年を踏まえて、改めて基礎から始めるという意味で、「足下から一つひとつを積み上げて」をテーマにします。

### 1 今年のチャレンジは？

今年は、過去の交通事故の清算の年になります。

首の可動域も狭くなり、運転中に右後ろを見るのが厳しい状態＝後遺障害となり、間もなく、加害者側から委ねられた訴訟を行う予定です。お役所時代は、被告代理人の立場を何回か経験していますが、原告は初めての立場です。

交通事故の訴訟は、聞くとところによれば、加害者側に有利な面が強いとのことですが、せっかくの初めての機会～新しい経験を得るチャンスですので、自分たちの主張をきっちり訴えたいと思います。できれば信義則に反するような行動を平気でとる弁護士にも何らかの責任を認めさせ、交通事故の事後処理に一石を投じられればと考えています。

ちなみに、先方からは、合併間近い保険会社の意向でしょうが、被害が確定していないにも関わらず、調停を申し立てたいと一方的な連絡があるなど、相変わらず勝手な人たちと思うばかりです(笑)。

今年は、この清算を終えてから、次のことを考えたいと思うところです。

### 2 政策提言に向けて

今年は無理せず、できる範囲で、考えていきたいと思います。

ヒューマンケア通信は、昨年と同じような頻度で継続するとして、レポートについては、定型的なデータ整理等を外部に委託するなどして、政策的な検討に時間を割きたいとは思っていますが・・・時間も限られており、せめて四半期に1度は、レポートを書いてみたいところです。

また、全国を車で見て回る時間は、今年ほどは難しいでしょうが、継続したいと考えています。これを繰り返すことで、きっと、良いアイデアに巡り合えると思うからです。

### 3 事業主体のアドバイザーとして

今年は、昨年からはじめた医療法人の人材の再教育のスキームを何とか動かしたいと考えています。

基礎的な取り組みは一応できつつあるので、あとは、その枠組みの中で頑張る人たちが出ることを期待しています。頑張る人が一人でも多ければ、将来の希望となりますが、その実現のほどは・・・

また、上半期は、チャレンジド研究会を無事終えることに努力したいと思います。どのような形で終えるかはこれからですが、できれば、メンバーの切磋琢磨の始まりとなるような形にしたいものです。

その後は、小規模な形で、医療・福祉業界以外の方をゲストに呼んで、フランクな意見交換の場を数回持ちたいと思っていますが、これは上半期に形にする予定です。

### 4 子供、家族に向けて

子供や家族と一緒に行動する時間は、昨年と同じように確保したいと思っています。

子供は間もなく独り立ちし、両親は間もなく人生を終えるのでしょうか、その時間を一緒に過ごすことに意味があるからです。こうした時間の一端を、引き続き、コラムで伝えられれば、良いかと思います。

昨年、中国の古典「礼記」の「修身齊家治國平天下」という言葉を教えていただく機会を得ました。「まず自分の行いを正しくし、次に家庭をととのえ、次に国家を治め、そして天下を平和にすべきである。」という意味ですが、天下国家を語る基礎として、まずは自分と家庭を治められればと思うところです。

最後に、皆さんの一年が、有意義なものとなることを祈念します。

ヒューマンケア・システム研究所 代表 北川博一